



◆今日の言葉◆

=ダメ出しの前にまず“受入れよう”!=

- ×「なぜやらないの？」
- ×「早く、いう通りにやりなさい。」
- ×「とにかくやってみればいいじゃないか」

- 「そうか、そう思ったんだね。」
- 「そこが難しいと思っているんだね。」
- 「ちょっと、一緒にやってみよう。」

最後に

- ◎「ありがとう」
- ◎「助かった」
- ◎「成長したね」

我々大人は、子どもが指示通りに動かないことに対して、「なんで、やらないの?」「はやくやりなさい。」と責めることがよくあります。

しかし、子どもなりに理由があります。

- ・まじめにやるのは「ダサい」。
- ・苦手だし笑われるかも。
- ・恥ずかしい。
- ・面倒くさい。おもしろくない。

など理由は様々です。

そのような時は、まず受け入れます。

「ま、いっか、それもあかな!」

*ただ、わがママを認めるものではありません。



その上で、ただ責めるのではなく、関心をもって声をかけます。

そして、最後にし

っかり褒めてやります。

「ありがとう」「助かった」「成長したね」など褒めることでやる気を育てましょう!

◆この夏、親子で挑戦してみては◆



以前、長松小学校で2年生を担任した時がありました。

全校児童千人を超える時代でしたので、子どもどうしも親どうしも、希薄な関係でした。

そのためか、子どもどうしのトラブルも多く困っていた時、保護者からテレビ番組の「欽ちゃんの仮装大賞」に応募しませんか?との提案がありました。

誰が何をするの???

「子どもたちに決まってるじゃないですか!」

「何をするかは、先生考えてください・・・」

「それ以外は保護者で全部しますから・・・」

ニち～ん!ニ

仮装の内容は恥ずかしくてとても言えませんが、何と一次審査を通り九州地区予選として福岡のFBSテレビ局で二次審査を受けることになりました。

私、38名の子ども、保護者は、貸し切りバスでいざ出陣!・・・しか～し、世の中あまくありません。二次審査は見事に失格!

東京で萩本欽一さんとバニーガールにあう夢は一瞬で散りました。帰りは、バスの中で保護者とやけ酒を飲みながら盛り上げて帰ってきたことを思い出します。

約一カ月間、私と子どもたちは、昼休みに毎日練習。

保護者は衣装づくりや音響づくりなどの準備に無我夢中でした。

大変でしたが、練習や準備を通して、子ども達どうし、保護者どうしの絆ができ、その年は、それ以降みんな仲良くなり思い出に残るクラスになりました。私の財産です。



もうすぐ夏休みです。

この機会に、子どもと一緒に取り組めることを計画して、実践してみませんか?

数十年後に、「こんなこともあったね。」と言える日がきっと来ることでしょう!

お金では買えない財産となるはずです。

【お知らせ】

長松小ホームページもご覧ください。子どもの学校での様子など画像も少しアップロードしています。スマートフォン、タブレット、パソコンからでもご覧いただけます。